

# 新人アニメーターの月収を正確に知っていますか？

アニメーターWeb レポート 2010年(平成22年)2月25日

もしかして、もしかして、経営者も制作もアニメーターも誰も知らない？ のではないかという疑問がわき、小規模ながら知り合い関係からの情報を集めて独自調査をおこない、ここにレポートを發表します。

アニメーター、とくに新人アニメーターの収入が低いという話は、なんとなくみんな耳にしていると思います。

しかし、本当はただ低いだけではなく「異常に低い」ことを、どれだけの人が本当に知っているのか、最近とみに疑問に感じ始めています。なぜなら、もしこの「異常な低賃金」を知っていたら、誰だって「これは無理だ・・・」と思うはずですから。

制作会社の経営者も、個人的にはみなさんいい方ばかりです。この「異常な低賃金」を知ったら涙なしではおられないと思うので、これはやはりご存じないのです。

## 1) 動画単価

一般的なテレビシリーズの動画単価は「2009年 JAniCA・アニメーター実態調査」によると1枚あたり201円。アニメーターWeb 独自調査で各社にじっさいを聞いたところでも、制作会社から支払われる1枚単価は200円～220円くらいが多いです。240円というのもありましたが少ないです。

高いほうをとって、ここでは **動画単価 1枚 220円** としましょう。

## 2) 何枚描けるか

さて次に、動画が一月に何枚の動画を描けるかです。これには諸説あるでしょうが、明確なのは昔の半分も描けないということです。昔は1000枚/月で一人前といわれていました。いまは500枚/月で描けるほうです。

500枚しか描けないのか、と思うのは昔の人です。いまの動画を見たことがない人です。

昔の動画といまの動画の、線の量をくらべてごらんください。そして昔の動画といまの動画の、線のていねいさをくらべてみてごらんください。圧倒的なちがいですから。

アニメーターなら、見ればわかるはずですが、「枚数ができないのは仕事をさぼっているからだ」などというのは、見間違いもはなはだしい。

あの巨匠・大塚康生さんも著書「作画汗まみれ」の中で、ご自身の動画時代をふり返り、比較して2000年代の動画を以下のように感想しておられます。

「自然現象や群衆のカットなどを選び(中略)たぶん1日に40～50枚くらいだったはずですが。ただし、現在の動画のクオリティとは比べられません。今の日本のアニメーションは動かない代わりに驚くほど神経質で複雑な線で描かれているものが多いからです」

500枚かければ動画として十分に描けるほうですが、多くの動画は500枚が描けません。

ある大手制作会社の経営者から次のような話も聞きました。

「原画にあげる時期の基準を動画を500枚/月×3ヶ月間続けること——としていたところ、誰も基準をクリアすることができなかつたため、400枚/月に基準を下げて原画へあげることができた」

動画が量を描けなくなった理由には絵の複雑化だけではなく、デジタル化のしわ寄せをこの動画部門が一手に押しつけられたという点も重要です。

他工程がすべてデジタル化によって、生産量向上の恩恵を受けたのに対し、動画部門だけは処理速度が激減してしまったのです。この点については、他工程との月収比較のところの後述します。

まずは動画の月収計算にもどりましょう。

ここでもいいほうをとって **月産動画枚数 500枚** としてみましょう。

ではどちらもいいほうの前提で、月収を計算していきます。

単価 220円 - 管理費 20%(44円) = 176円

単価 176円 × 500枚 = 88000円

88000 - 8800(1割源泉) = **手取り月収 79200円** ←いいほう？

これが才能と技術とスキルが充分にある絵描きが、1ヶ月間一生懸命働いた対価なのです。

では、やや少なめのほうで計算するとどうなるか

単価 200円 - 管理費 20%(40円) = 160円

単価 160円 × 400枚 = 64000円

64000 - 6400(1割源泉) = 57600円 ←えっ？！

月産400枚は、ロボットものなどを多く描かされていたら、才能があってもこんなものです。

手取り57600円、税込み64000円は、悲しくなるのであまりいいたくありませんが、ときには学生アルバイトでも稼げる金額です。

さて、次です。

### 3) 新人動画の月収推移はどうか

新人1ヶ月目から2年目までの出来高動画で一般的な月収がどう推移するか、当アニメーターWebが独自に、かつ信頼性のある回答だけを集め、複数会社の例を平均化してみました。

現場の動画を管理している動検の方などは、この数字が現場感覚であることに同意できると思います。

経験月数	月産枚数	月収(税込)
1	100枚	16,000円
2	150枚	24,000円
3	200枚	32,000円
4～6	300枚	48,000円
7～12	400枚	64,000円
13～24	400枚～625枚	64,000円～ 100,000円

#### 4) 仕上は何枚塗れるのか

これもセル時代の感覚でおなじように考えてはいけません。

セル時代の彩色(※いまの仕上と考えるとよい)は、動画とおなじか、すこし多いくらいしか枚数ができませんでした。そして仕上単価は動画とおなじかー10円くらいでしたので、セル時代は動画と仕上の月収はほぼおなじか、やや彩色が少ないくらいでした。

(※セル時代の仕上はトレスと彩色に分かれており、トレスは比較的高給をとっており、彩色は低かった)

いま仕上はデジタル化の恩恵を受け、RETAS によるデジタルペイントでほぼ動画の4倍の枚数があげられます。これは産業効率を考えるとすばらしいことです。

では4倍量の仕上は、1枚単価がいくらなのか。

#### 5) 仕上単価はいくらなのか

アニメーターはこれを知らないでしょう。おそらく原画や作監は仕上単価を気にしたこともないでしょう。

仕上単価は動画とほぼおなじなのです。セル時代の動画単価ー10円という値段設定そのままなのです。

仕上単価はおおよそ以下のとおり。

テレビシリーズで 180～220円、劇場用では350～450円くらいです。

テレビシリーズで計算してみましょう。

仕上単価を1枚180～220円、管理費20%引きとすると

単価144～176円 × 1800～2000枚 = 259200～352000円 ←作監料より多いです。

6ヶ月目の新人仕上がキャリア20年の作画監督の倍の収入を得ることもできるのです。

とはいえ仕上が新人でも高収入を得られるのは、セルからデジタルへの移行期に単価の調整が業界として一律に行えなかった産業構造的結果であり、仕上が高収入を得られるなら、それはそれでたいへん喜ばしいことです。

問題はそこではなく、仕上の1/4の量しか枚数があげられない動画が、仕上とおなじ単価設定のために6万円台の月収であるということです。まったく生活がなり立たないということなのです。

才能があっても、長時間働いても、生活がなり立たません。

この現状をおそらく多くの業界関係者は正確には知りません。

新人アニメーターは、仕事で疲れて帰っても、家で絵の勉強をしています。仕事以外で絵を描かないようではうまくなることはできないからです。

才能のある新人たちが、ほんとうにアニメーションを好きでがんばっています。そういうけなげな新人のことを知ってください。そして、すなおにスクスクと、まっすぐ育つように応援と教育とをおねがいします。